



巻頭特別企画

FC町田ゼルビア 2023シーズンJ2優勝・J1昇格記念

東京都サッカー協会会長 **林義規** × FC町田ゼルビア監督 **黒田剛** 対談

「高体連出身の指導者に夢と感動を」

TOKYO FA's Pick Up

JFAスポーツマネージャーズカレッジSMC
サテライト講座

SPECIAL INTERVIEW

J1昇格 東京ヴェルディ 深澤 大輝選手
「僕らには積み上げてきたものがあると信じて」

GAME REPORT

特別国民体育大会(サッカー競技)
第102回全国高校サッカー選手権大会
第102回全国高校サッカー選手権大会 東京都大会決勝
JFA第47回全日本U-12サッカー選手権大会東京都中央大会
JFA第20回全日本女子フットサル選手権大会東京都大会

「サッカーライフ」

審判委員会審判統括部 長谷川雅さん

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田(和田長浜海岸側)
2021年4月
取得名義:株式会社スカイ・ランド
(日本水資源開発株式会社関連会社)

人を潤し自然を守る
ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒142-0063 東京都品川区荏原3丁目2番6号
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661

自分を高め、感性に出会う、気づきに出会う、仲間に出会う

JFA スポーツマネジャーズカレッジ SMC

サテライト講座 週末コース（集合形式）

主 催：公益財団法人日本サッカー協会、公益財団法人東京都サッカー協会

1月20日（土）、21日（日）、28日（日）に、JFA Passport アプリより申込みされた15名の方が新しいJFAハウスにて、JFA スポーツマネジャーズカレッジ SMC サテライト講座週末コースを受講、修了した。

概要

クラブ（チーム）・学校・自治体等、スポーツ・団体組織の運営に携わっている方やこれから携わる予定の方を主に対象とし、自立した魅力ある（スポーツ）組織づくりに必要な「明確なビジョンを描く力」やそれをよりよく運営していくために必要な「マネジメントの基礎的な力」を丁寧にやさしく身につけていく講座である。サッカー・スポーツを取り巻く環境をより良く変えてみたい・考え直してみたい、そのきっかけや新たなアイデアを得たい等、課題や悩みの解決のヒントにもなり得る内容となっている。



修了証を授与された受講生15名と佐伯インストラクター

本講座は、セッション1～6に分かれ、各セッション3時間（合計18時間）、個人ワークやグループワーク等で進められる。

セッション1 ビジョン	組織にとって重要な将来のビジョンを考える
セッション2 環境分析	社会全体を様々な視点から分析し、社会がスポーツに求めていることを考える
セッション3 コミュニティデザイン	チームビルディングのスキルを紹介し、コミュニティをデザインしていくことを考える
セッション4 SWOT	自組織と外部環境を分析し、戦略立案を行う
セッション5 行動計画	やりたいこと Will、できること Can、求められていること Need、という枠組みで考える
セッション6 目標管理	ビジョン実現に向けて時系列で整理し、より具体的な行動計画を立てる

初対面同士のため緊張感漂う中、インストラクターの佐伯仁史氏が場を和ませる意味もある自己紹介のアイスブレイクからスタートさせた。

受講生は指導者として日頃から人前で話す機会もあるため、初日のセッション1・2を終える頃には、開始時の雰囲気とは異なり、多様なバックグラウンドを持つ受講生同士で、それぞれ所属している組織の紹介や課題を出し合い、お互いに耳を傾け、意見交換等が行われていた。また、課題は付箋やカラーペンも活用され、発表・表現の仕方について工夫がなされていた。時事課題をテーマにした話し合いも行われ、受講生が日ごろから熱心に意識的に業界について学んでいることがうかがえた。

グループワークでは、少人数に分かれていることもあり誰もが主体的な立場で意見を出し合える空気感がありファシリテーターや書記などの役割を順番に回しながら

進めていた。各ワークでは、課題が出されると悩んでいるように見受けられることもあったが、インストラクターからのヒントや助言、具体的な例を元に、閃いたり思いついたりした様子で、活発的に意見が述べられたり、アイデアが話し合われていた。発表は、回数を重ねるごとに向上していき各発表後には、インストラクターからの講評もあり、納得したような表情を浮かべながら真剣に聞き入っていた。

セッション中には、LINEオープンチャットでそれぞれ作成したワークシートを共有、またコメントを入れるなどし、机上だけでなく、オンライン内でもコミュニケーションが図られた。

最終セッション6では、ビジョン実現に向けての個人プレゼンテーションがあった。限られた時間内で、3日間の講義内容を踏まえ身振り手振りや感情を込めて発表が行われた。

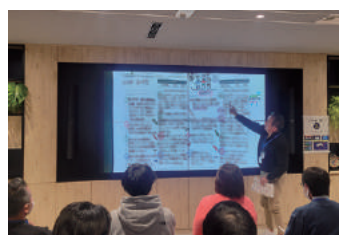
3日間のセッションで自身や所属スポーツ組織の環境分析、戦略立案等を経て具体的な行動計画を立てることで、考え直し見つめ直す機会となりビジョン実現への道筋が見えたことに違いない。今後は実行することが重要であり、マネジャーとして自組織のマネジメントで学びを活かし、魅力あふれる組織づくりをしてほしい。



グループ内での個人発表



グループワーク



行動計画発表

受講生コメント

吉田正也さん（国分寺7小FC コーチ）

サッカーに関わる方でも、自身と異なる関わり方をされている方の考えがとても刺激になりました。

古川貴弘さん（FC青山オーバー・フォーティ 選手兼監督）

この貴重な時間と体験をもっと多くの方々に知っていただき、もっと多くの共感者が増えて欲しいと思います。

2023 シーズン J2 優勝・J1 昇格記念

東京都サッカー協会 会長 FC 町田ゼルビア 監督



林 義規 × 黒田 剛 対談



東京都サッカー協会林義規会長と、昨シーズン J2 優勝し、J1 昇格を決めた FC 町田ゼルビア黒田剛監督の対談がクラブハウスで行われた。高校サッカー選手権や、2024 年シーズン初めて J1 リーグで戦うチームについて熱く語り合いました。

年末年始の高校サッカー選手権大会について

——今回は親交の深い東京都サッカー協会林義規会長とFC町田ゼルビアの黒田剛監督による対談です。まずはお二方が高体連出身の指導者ということで、年末年始の高校選手権から振り返ってください。

林 東京都サッカー協会の会長という立場としては、国立競技場での開幕戦を戦った早稲田実業と、結果的に3位入賞を果たした堀越の奮闘をうれしく思います。両校とも大変頑張ってくれました。ただやはり昨年度まで黒田監督が総監督を務められた青森山田の優勝に触れざるを得ません。素晴らしい戦いぶりは称賛に値します。

黒田 ありがとうございます。正木昌宣監督も喜ぶと思います。

林 サンフレッチェ広島ユースとの高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ 2023 ファイナルを制した青森山田は、選手権でも優勝の本命と目されている上に、相手からも厳しくマークされる中で、連戦を勝ち抜いた非常に勝負強いチームでしたし、U-18世代の強さの象徴のような戦いぶりでした。決して学校を取り巻く環境が良いとは言えない中で優勝されたことは素晴らしいかったです。

黒田 選手権の歴史を分かっている林会長にそう言うだけでうれしいです。私が青森山田に30年前に着任してから、勝てる組織作りをしてきました。この10年は毎年が勝負という目標を掲げながら、組織作りをしてきたことが実った形です。私が退任する際、

選手たちやスタッフたちと涙を流して、後ろ髪を引かれる想いでFC町田ゼルビア（以下、町田）に来ましたが、私が率いる町田が活躍していたことも後押しとなったのか。みんなが奮起して、何倍速で成長した結果、たくましい集団になっていました。

林 黒田総監督という大きな柱が抜けて、正木監督はいろいろなプレッシャーにさらされていたでしょう。それでも高円宮杯と選手権を制することができたのは、青森山田のブランド力や山田魂がバトンとしてつなげられた結果です。恵まれた環境で組織作りができる東京も見習わないといけないことがたくさんあります。

少年サッカーが盛んな地域の町田

——ここからは町田の話をして下さい。黒田監督の下、町田はJ1昇格を果たしました。

林 昨季の激闘を経て、町田と東京Vが昇格をしましたから、6月で東京都サッカー協会の会長を退く身としては、“有終の美”を飾る形になりました。黒田監督には大変感謝しています。「ありがとうございます」（笑）。

黒田 林会長にはシーズン中の激励を含め、応援して下さいことに感謝しています。

林 東京都の人口は約1,400万人以上ですから、東京の3つのJ1クラブによる対戦は大変盛り上がりだと思います。見ている子どもたちに対





しても大きな影響を与えるでしょう。目の前にいるからそう言うわけではないけど(笑)、町田をJ1に引き上げた黒田監督は大変な功労者ですよ。

——その3クラブの中では“新興”である町田に対して、どんな期待をされていますか。

林 クラブハウスの入り口に町田の創業者の1人である重田貞夫さんの写真が飾られていましたが、実は私が暁星に赴任してから5年間は小学校で教えていた期間があります。そのときに町田SSSや境川イレブンと対戦するためによく町田に来ていましたし、当時の監督が重田さんでした。清水FCを倒すために創られた選抜チームであるFC町田との対戦経験もあるので、もともと私と町田は縁が深いです。さらに高体連出身の指導者であり、昔から知っている黒田監督が町田の監督に就任するとなれば、陰ながら頑張してほしいと期待を寄せていました。もちろん、J1での戦いも期待しています。

黒田 昨年も1年間言い続けてきましたが、東京3クラブの中でも人気があるFC東京や、東京Vといった老舗クラブに対して、この構図を覆すんだという気概がないと、J1に上がった意味はないと思っています。そう自分に言い聞かせ、東京のJリーグの縮図を変えていきたいです。

林 さすが黒田監督、野心にあふれているね。

黒田 町田に来てみて分かったことは、街も開けていて住みやすいということ。立派なクラブハウスもある。そういった町田の良さは、青森にいた30年間では気づけなかったことですが、それは町田のことを知らない方々にとっても当てはまることでしょう。J1に昇格したことで知名度が上がり、町田がFC東京や東京Vをしのぐ存在になっていくこと、そして町田を世界が注目するようなクラブにするために、積極的に挑戦していきたいです。

林 近年の町田はサイバーエージェントグループに入り、初めてJ1に昇格した新興クラブのように見えますが、実は歴史のあるクラブです。43万人都市の町田市は東京都の中でも少年サッカーが盛んな地域でしたし、老舗的存在でもありました。

黒田 町田は、少年サッカーから育ったクラブに対して愛情を寄せているファン、サポーターの方々が数多くいるクラブです。そのクラブに藤田晋社長という理解者がやってきました。他のクラブでは監督を引き受けていないかもしれませんが、この町田には飛び込みやすい環境や魅力がありました。また教育者が創ったクラブという新鮮味もありましたし、教育者として同じ想いを共有できることも監督を引き受けた理由の一つです。まだまだ高体連にも素晴らしい指導者がいますから、後に続く道筋を作っていければと思っています。

林 育成年代の指導で一番生活が安定しているのは学校の教員。その世界を飛び出してプロの世界に飛び込んだのは、勇気があるという言葉だけでは言い表せません。J1でどうなるかは分かりませんが、J2から1年で昇格させたという事実は、高体連の指導者も称賛しています。

黒田 ほかの高体連の指導者からは計り知れないほどの数のお祝いメッセージが届きました。また選手権に出場した指導者が集結し、

J2優勝・J1昇格のお祝いの席を作ってくださいました。とてもありがたいことです。

林 1年で結果が出るものでもないし、腰を据えて強化に取り組むのもひとつの手かなと思いましたが、スタートダッシュで快進撃を見せていました。単純にすごいなと思っていました。

今季からJ1の舞台に挑む町田

——それでは林会長。初めてのJ1を戦う黒田監督へ、エールをお願いいたします。

林 全てを投げ打ってプロの世界に飛び込んだことをリスペクトしています。昨年も“親心”でなんとか成功を収めてほしいと思ってきました。Jリーグは監督交代もある世界ですが、大きな成果を残してほしいです。



——続いて黒田監督。1年目のJ1に挑む意気込みをお願いいたします。

黒田 昨年は大きな成果を残すことができたが、今年はまた一からの大きなスタートです。私はJ1で監督を務めた経験がないため、どんな目標設定が良いのかも分かりません。昨年は山田で構築してきた組織作りや勝負に徹する姿勢が、プロの世界でも通用することを体感したので、それをベースにもっと高い強度やスキルをチームとして追求してやっていきたいと思っています。

林 繰り返しになりますが、高体連の指導者も黒田監督のJ1での活躍を期待しています。

黒田 ありがたいのですが、クラブが勝つこともそうですが、リーグの中で切磋琢磨している者として、また高体連出身のプロ監督として、指導者にも夢と感動を与えていくこと。そして見る方々にも感動を与え、それがサッカー人口を増やすことにもつながり、日本サッカーが世界に立ち向かっていく新しいサイクルを作ることこの上ない喜びです。高体連出身の監督でもやれることを、死に物狂いで示していきたいです。今はワクワク感と不安感と50%ずつの心境でいますが、林会長をはじめ、応援していただけることは励みになります。

林 立場的に町田、町田とは言えないので(苦笑)、FC東京や東京Vとの対戦は特に楽しみにしています。

黒田 お忙しいとは思いますが、ぜひ町田のホームゲームにお越しください。なにとぞ町田をご最前に(笑)。

FC 町田ゼルビアを応援しよう!

2024.03.16 (土) 14:00 札幌ドーム
明治安田 J1 リーグ 第4節 vs 北海道コンサドーレ札幌

2024.03.30 (土) 15:00 町田 GION スタジアム
明治安田 J1 リーグ 第5節 vs サガン鳥栖

2024.04.03 (水) 19:00 町田 GION スタジアム
明治安田 J1 リーグ 第6節 vs サンフレッチェ広島

2024.04.07 (日) 15:00 Uvance とどろきスタジアム
by Fujitsu
明治安田 J1 リーグ 第7節 vs 川崎フロンターレ

2024.04.13 (土) 15:00 国立競技場
明治安田 J1 リーグ 第8節 vs ヴィッセル神戸



16年ぶりのJ1リーグ復帰

東京ヴェルディ DF 深澤大輝選手インタビュー

© TOKYO VERDY

東京ヴェルディは2023シーズンJ2リーグで3位となり、J1昇格プレーオフを勝ち上がり、16年ぶりのJ1リーグ復帰を果たしました。ヴェルディアカデミー出身で、昨シーズンも左サイドバックとしてチームを支えた深澤大輝選手に、昨シーズンの昇格を振り返ってもらい、自身も初めての挑戦となるJ1で迎える2024シーズンに向けて話を聞きました。

——深澤選手は、東京都の東久留米市で生まれ、稲城の東京ヴェルディに通い、中央大学では多摩市に通い、まさに東京都のサッカープレイヤーですね。

東京から出たことがないので、地方の選手の話も色々聞いたりすると地方も面白そうだと思う反面、やはり東京は便利だと感じることがあります。

——改めて昨季を振り返っていただきたいのですが、国立競技場で昇格を決めた時の実感としてはどんなものでしたか？

81分ぐらいに交代して、その時は負けていてちょっとやばいという雰囲気、ベンチに戻ったんですけど、PKを獲った瞬間に奈良輪さんが肩を組もうと言ってきて、みんなで肩を組みながらPKを見守って、ゴールが決まって追いついた時はベンチも興奮していました。試合が終わった瞬間は、僕は(森田) 晃樹の所に行きましたが、色々な所で輪が出来ているのを見たし、正直、泣きました。みんなも泣いているのを見て、僕や晃樹や(谷口) 栄斗とかアカデミー育ちの選手が泣くのはわかりますけど、(宮原) 和也君とかそういう人たちが泣いているのを見て、僕たちもヴェルディのことを思っていたけど、こんなにもヴェルディのことをみんなが思ってくれたんだと嬉しく思いました。ヴェルディがJ1で戦っていたのは15年前だから、僕は10歳でヴェルディアカデミーに入る直前の年だったので、僕はJ2のヴェルディしか知らなかったんですけど、自分がJ1に上げる立場になれたことはすごく感慨深く嬉しかったし、ヴェルディに入って良かったと思えた瞬間でした。

——プロ4年目の新しいシーズンを今年はJ1で迎えるわけですが、世界は違って見えますか？

J1リーグの日程が発表されて、今まではJ2の日程だったのが、今年はJ1のチーム名との対戦相手を書いてあり、ついに始まるんだと思いました。僕はJ2でしか戦ったことはありませんが、ずっとテレビで見ていたJ1という舞台で、活躍する同期や先輩もいたので、試合はチェックしていました。そういう人たちとついに同じ舞台に立てるんだと思いました。J1でやっている先輩、同期の選手からも「やっとな戦えるね」という連絡も届き、ついにJ1に上がったんだという実感が湧いてきた感じがあります。

——今季は、城福監督も開幕から全力で行くぞと話していて、クラブも計画的にJ1に残留するというのを打ち出していますが、選手の立場からはどう受け止めていますか？

今年のチームは特に若くてJ1を経験している人たちが少なくJ1のレベルを知らない選手たちが多く中で、降格すると思われるのは当たり前かもしれないですが、僕らは特にこの2年間で積み上げてきたものがあると思っていますし、その積み上げてきたものを一試合一試合、全て出せば「目指すのは17位ではない」と監督が言っているのも僕は納得できます。本当に集中した組織的な守備をしていますが、外



2024シーズン前トレーニングの様子

国籍選手の力などで失点してしまうのが、J1の舞台だということが分かっていますが、組織的に守って、0-0で長い時間を進めて、先制することができれば、僕たちは勝てるという印象があります。

——東京の3クラブが初めてJ1にそろうという記念すべきシーズンですが、それについて聞かせてください。昨年、深澤選手がピッチに立てなかった天皇杯3回戦での東京ダービーをJ1で出来ます。

あの試合は、自分は出ていませんでしたが、昨年一番印象に残った試合と言っても過言ではないくらいです。PK戦まで行って負けてしまいましたが、自分は試合に出ていなかったのに、あんなに悔しいことはないと思いました。アカデミーで育った僕たちからしたら、FC東京には絶対に負けられないと思った試合でした。それをJ1の公式戦で出来るのは楽しみです。絶対に盛り上がる試合だと思うので、あとは試合で勝つことが大事かなと思います。

——FC町田ゼルビアに関してはどうでしょう。サッカーのアイデンティティの勝負みたいな部分もあります。

だからこそ負けたくないと思いますけど、昨年は結局、勝てていないですし、僕らは結果で示すしかないと思います。町田は今年の冬も色々な選手を補強していますが、僕らには積み上げてきたものがあると信じていますし、町田には結果で証明したいという思いが強いです。

——これを読んだ人が一人でも多くスタジアムに来てほしいですね。

東京は3チームがいるので盛り上がると思うし、それをきっかけにヴェルディを応援してくれる人、サッカーを見られる人が増えてくれたら嬉しいです。その中でヴェルディが東京の2チームに勝利すれば、ヴェルディのファン・サポーターももっと増えるんじゃないかなと思います。



2024シーズン前トレーニングマッチの様子

東京ヴェルディを応援しよう!

- 2024.03.16 (土) 16:00 味の素スタジアム
明治安田 J 1 リーグ 第 4 節 vs アルビレックス新潟
- 2024.03.29 (金) 19:00 味の素スタジアム
明治安田 J 1 リーグ 第 5 節 vs 京都サンガ F.C.
- 2024.04.03 (水) 19:00 レモンガススタジアム平塚
明治安田 J 1 リーグ 第 6 節 vs 湘南ベルマーレ
- 2024.04.07 (日) 13:00 味の素スタジアム
明治安田 J 1 リーグ 第 7 節 vs 柏レイソル
- 2024.04.13 (土) 16:00 味の素スタジアム
明治安田 J 1 リーグ 第 8 節 vs FC 東京

少年男子は3位、少年女子は4位に 特別国民体育大会（燃ゆる感動かごしま国体）

主催：公益財団法人日本スポーツ協会、文部科学省、鹿児島県、公益財団法人日本サッカー協会、志布志市、南さつま市、霧島市
会場：OSAKO YUYA stadium、国分運動公園陸上競技場 他
大会期間：2023年10月12日（木）～10月16日（月）

鹿児島県で開催された「特別国民体育大会（サッカー競技）」に出場した、東京都少年男子は3位決定戦で勝利して3位。少年女子は4位で大会を終えた。

少年男子



「ありがとうさげました（鹿児島弁でありがとうございました）」と書かれたフラッグを掲げた

「東京のプライド」「東京らしさ」を体現

広島県との3位決定戦では、けが人などがあり、3-4-3でスタートした中で29分、相手の連続攻撃から耐えきれず失点し先制を許す展開。それでも今大会多くのフォーメーションを試してきた東京都は直後に4バックに変更。さらに後半開始からエースのFW前田勘太郎（横浜FCユース）、DF今井宏亮（東京ヴェルディユース）、GK長谷川宗大（三菱養和SCユース）と一気に3枚替えをして勝負に出た。

すると39分、前田の鋭い抜け出しからのシュートは相手GKに阻まれたが、ここで得たコーナーキックからMF仲山獅恩（東京ヴェルディユース）のキックをDF坂井偉大（東京ヴェルディユース）がヘディングで決めて同点に追いつく。さらに43分には再び仲山の左コーナーキックからの混戦を今井颯大（三菱養和SCユース）がヘディングで押し込みMF鈴木楓（FC東京U-18）が右足で蹴り込んで逆転した。守備では佐々木将英（FC東京U-18）、田中玲音（東京実業高校）のCBコンビが最後まで跳ね返し続けて最少失点に切っ掛け、逆転勝利で5日間の戦いを締め切った。敗戦から気持ちを切り替え、3位入賞。東京都は準決勝で茨城県にPK戦の末に敗れて決勝進出を逃したが、翌日に行われた3位決定戦で広島県を下して勝利で大会を終えた。

目標としていた2013年大会以来となる日本一には届かなかったが、大会前に仲山が話していた「東京のプライド」「東京らしさ」を体現。表彰式では「ありがとうさげました（鹿児島弁でありがとうございました）」と書かれたフラッグを掲げながら笑顔で活動を終えた。

COMMENT

石川 創人監督

「東京らしさ」をエキサイティング、攻撃的、多様性、ハードワーク、リスペクトというキーワードで表現し、4局面（攻撃→攻から守→守備→守から攻）で主体的に仕掛けて主導権を握るサッカーを目指しました。日本一という目標は達成出来ませんでしたが、選手はプライドと責任を持って5連戦を戦い抜き、東京らしさを体現してくれました。選手には、悔しさど、最後まで戦い抜いた経験を糧に、夢に向かって成長し続けてほしいと思います。



少年女子



大会連覇はならなかったが4位で終えた少年女子

この経験を各選手の成長に繋げる

初代女王の東京都は初戦、北海道と対戦し、DF伊勢はな（浦和レッドダイヤモンズレディースユース）の2ゴールなどで5-0で快勝。広島県との準々決勝も序盤からゴールを重ねて3-0で勝利したが、準決勝で大阪府にPK戦の末に敗れ、2大会連続の決勝進出とはならなかった。

3位決定戦は、前回大会のファイナルで対戦した静岡県と対戦。東京都は中盤でボールを出し入れしながらFW廣川果歩（ちふれASエルフェン埼玉マリU-18）を狙ったボールや左SH末岡美嘉（大宮アルディージャVENTUS U18）、右SH上川路遥（十文字高校）の両サイドを使った攻撃で崩したいところだったが、速い相手の寄せに苦しみ縦パスが乱れるなど、なかなか相手ゴールに迫りきることができない。

前半中盤以降は相手にボールを持たれる時間も増え、サイド攻撃から決定機に繋がれる場面も。伊勢、DF久山紗季（ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ）、GK辛嶋心結（十文字高校）を中心に耐えていたが、59分、セットプレーからヘディングで決められ、今大会初失点を喫した。終盤は途中出場のDF本多桃華（十文字高校）主将を前線に出して1点を奪いにいったが、ゴールネットを揺らすことができずに敗れた。

1回戦、準々決勝の2試合で8ゴールを量産していただけに、準決勝、3位決定戦と2戦連続でノーゴールに終わったのは悔いが残るところ。それでもミニ国体を終え、「本国体に出て、選手が成長して、それぞれのチームで核となり選手権に出たり、クラブの全国大会に出て行くところを見ているので、本大会に出ることで選手の成長に繋がるのは昨年から見えていて感じますね」と野田明弘監督も話していたように、この経験を生かし、それぞれのチームでの活躍を目指す。

COMMENT

野田 明弘監督

特別国体には、2連覇を目標に掲げ臨みました。結果は4位、目標には届かず準決勝と決勝は無得点で課題と悔しさが残りますが、選手・スタッフが丸となり、東京を背負って最大限の力を発揮してくれたことに感謝したいと思います。この経験を今後のサッカー人生の糧にしてくれたらと思います。





早実が初優勝、堀越は2大会ぶりの優勝

第102回全国高校サッカー選手権大会 東京都大会決勝

主催：東京都サッカー協会、東京都高等学校体育連盟 他

日程：2023年11月11日

場所：味の素フィールド西が丘

第102回全国高校サッカー選手権大会東京都大会が行われAブロックは早稲田実業が國學院久我山に2-0で勝利。Bブロックは堀越が修徳にPK戦の末に勝利して、それぞれ全国大会出場を決めた。

【Aブロック】



初の全国選手権出場を果たした早稲田実業

早稲田実業が大会無失点で初優勝

「早実のサッカー」で初の全国の扉を開いた。早実・森泉武信監督は「今日に関しては早実のディフェンシブな、愚直なサッカーというのを見せること「早実のサッカー」を表現することを楽しもうと昨日から言っていて、彼らも肩の荷が下りたような形でできたのかなと思います」と振り返った。

早実を開始1分、FW久米遥太(3年)の抜け出しを起点にチャンスを作ると、こぼれ球をMF岩間一希(3年)がシュート。これをエリア内でコントロールしたFW竹内太志(1年)が右足でポストに当てながら流し込んだ。竹内は準決勝の国士館戦に続きゴール。「3年生もいる中で出してもらっていて、点を決めるっていうことが自分の役割なので準決勝も今日も決められて嬉しい」と喜んだ。さらに27分には追加点。10番のMF戸祭博登(3年)が運び、竹内が右サイドに展開。DF荒木陸(3年)のクロスからファーサイドのDFミス聡太郎(2年)のシュートは相手ディフェンスに阻まれたものの、こぼれ球を主将のMF西山礼央(3年)が左足でゴールネットに突き刺した。

一方、國學院久我山も後半に入り、10番のMF山脇舞斗(3年)を中心に攻め立てる。それでも早実は「自分たちが先制するのも、先制されるのも想定していたので、どんなことがあっても自分たちの戦い方を発揮しようと、みんなで声を掛け合っていて」と西山が語ったように2点を先行した後も変わらずに「早実のサッカー」を徹底。ディフェンスリーダーの若杉泰希(3年)は「ものすごい応援だったので、声も届かなかったりとかしたんですけど、とにかく近場の人としゃべってカバーし、今日自分たちのサッカーをやれた」。繋がる守備で最後まで0で乗り切り、無失点優勝を実現させた。



國學院久我山は反撃もゴールが遠かった



早実の攻撃を牽引した戸祭博登

【Bブロック】



2大会ぶりの全国選手権出場を決めた堀越

堀越が苦しみながら2大会ぶりの優勝

堀越・佐藤実監督が試合前に掲げたテーマは「引きずれ」。「とにかく試合の流れを自分たちのものにしようということを、この試合のテーマにするために僕が言った言葉だったんですけど」と明かすが、その言葉の通り、まさにゲームを引き寄せた。

前半から10番のFW中村健太(3年)を起点に堀越がペースを握ったゲームだったが、先制点は修徳だった。45分、MF橋本勇輝(3年)のフィードから、FW田島慎之佑(3年)が繋ぎ、DF島田侑歩(3年)のクロスにエースFWンワディケ・ウチュエ・ブライアン世雄(3年)がヘディングで決めて試合の均衡を破った。

1点を追う堀越は終盤、長身のCB森奏(2年)を最前線に出し、得点を奪いにいく姿勢を明確に打ち出す。ゲームはそのままアディショナルタイムへ。すると80分、中村を起点にMF渡辺隼大(2年)のクロスにFW高谷遼太(3年)がヘディングで決めて起死回生の同点弾。高谷は今予選初ゴール。「(選手権に出場した)一昨年もそれまでノーゴールだったんですけど、決勝でゴールを決めていて、そういう流れもあったのかわからないですけど、しっかり決めることができてよかった」と殊勲のゴールを振り返る。

延長戦でも決着がつかず、勝負の行方はPK戦へ。堀越はGK吉富柊人(3年)が相手の4本目をストップすると、5本目もミスを誘い、激戦に終止符を打った。



修徳は終了間際に同点ゴールを決めるもPKで敗れた

今シーズンはトーナメントでもなかなか思ったような結果を出せず、リーグ戦でも苦しんだ。それでも中村は「でもあの苦しみが無かったら多分ここは乗り越えられていないと思う。自分も怪我をして2か月離脱し、夏の合宿もできずにそこから少しずつチームが崩れていってリーグで5連敗して…。自分が帰ってきて、選手権に向けてやるしかない状況になり、その想いが実った」。苦しんだ分だけ強くなった堀越が2大会ぶりの全国を決めた。



PK戦ではGK吉富柊人が活躍

試合結果

Aブロック 決勝

早稲田実業 2-0 國學院久我山

得点者：竹内太志（早実）、西山礼央（早実）

試合結果

Bブロック 決勝

堀越 1(3PK2)1 修徳

得点者：ンワディケ・ウチュエ・ブライアン世雄（修徳）、高谷遼太（堀越）

堀越は史上最高のベスト4進出 第102回全国高校サッカー選手権大会



10番を背負い、主将としてチームを牽引した中村健太(右)

東京のレベルの高さを示す

準決勝の試合後。国立競技場の記者会見場で、佐藤実監督はこういう言葉を口にした。

「僕はTリーグに所属しているので、1年間一緒に戦ってきた仲間に『ここまで来れるぞ』ということを見せられたかなと。僕らが東京都の中でやっているリーグや予選の戦いは決してレベルの低いものではなく、東京の他チームの選手たちや指導者の皆さんにも、この結果で何か勇気や希望を与えることが少しできたのかなと思っています」

東京都A代表として出場した堀越高校は、大会前に掲げた『堀越史上最高』という目標を実現する全国ベスト4へ進出。東京の高校サッカーが誇るレベルの高さを堂々と証明してみせた。

「『なんで自分たちがここまで来れたんだろう?』って、俯瞰して見てもビックリするところがありましたね」と話すのはチームの主将を務める中村健太。初戦で今治東中等教育学校に競り勝った堀越は、初芝橋本高校、明桜高校、佐賀東高校と難敵を相次いでなぎ倒し、準決勝まで勝ち上がる。

相手は滋賀県代表の近江高校。高いテクニックをベースにドリブルとパスを織り交ぜたスタイルで、大会の「台風の目」となっていた。試合前に佐藤監督は「中盤で止まらずに加勢されて、アタッキングサードにどんどん入ってこられるとキツイ」という印象を抱いていたが、前半はまさに予想通りの展開を強いられてしまう。

立ち上がりの堀越は決して悪くなかった。ボールも動き、シュートの一歩手前まで持ち込むシーンも。中盤でプレーする吉荒開仁も「『自分たちのやりたいことができるな』と思いました」と開始10分前後までの時間で得ていた手応えに言及している。

だが、11分にカウンター気味に中央をドリブルで切り裂かれると、こぼれ球をねじ込まれて先制点を献上。13分にはビルドアップ時のパスミスからカウンターに転じられ、こども中央のドリブル突破から波状攻撃を食らい、最後はこぼれ球を押し込まれて2失点目。さらに22分にも三たび相手の加速するドリブルを止め切れず、左サイドを崩されて失点。前半だけで3点のビハインドを負うことになる。

ハーフタイム。堀越は大きな変化に着手する。「守備がハマっていなかったので、フォーメーションを[3-4-3]にして、マンツーマンでハメに行くことを意識しました」(中村)。システムを[4-3-3]から[3-4-3]にシフトしつつ、2人の選手交代も決断。1年生の三嶋奏太と谷口悠成をピッチに送り込む。

講じた策は奏功する。相手と完全にマッチアップさせることで、マーカーも明確になり、守備面で後手に回るシーンも減少。また、攻撃面でも前半



堀越をベスト4に導いた佐藤実監督

主催：公益財団法人日本サッカー協会、民間放送43社

日程：2023年12月28日～2024年1月8日

場所：国立競技場、駒沢陸上競技場、味の素フィールド西が丘 他

第102回全国高校サッカー選手権大会に東京都A代表で出場した堀越は準決勝で滋賀県代表の近江高校と対戦して1-3で敗れるも史上最高のベスト4進出の成績を残した。

なお、初出場の東京都B代表早稲田実業は国立競技場での開幕戦で、同じく初出場の広島国際学院と対戦し、0-2で敗れて、惜しくも初戦で姿を消すことになった。

はなかなか組み立てに関われなかったボランチの渡辺隼大がボールを引き出し始め、サイドも深い位置へ少しずつ侵入できていく。

70分過ぎにはベンチに下がっていた吉荒の判断で、再びシステム変更。今度は[3-5-2]に舵を切り、CBの森奏を最前線へ配置。

「後半は中盤も含めて守備が良かったので、その分『攻撃に重心を掛けてやっていこう』という狙いはありましたし、比較的うまく行っていたのかなと」(吉荒)。堀越に積極的な動きが戻ってくる。

後半もアディショナルタイムに入った90+4分。左サイドで高谷遼太のポストプレーから、途中出場の高木琉世が果敢に仕掛けてPKを獲得。堀越に絶好の得点機が訪れる。キッカーは中村。「試合中のPKは主将の自分が蹴ると決まっているので、落ち着いて決めることができました」。国立のゴールネットが揺れ、バックスタンドに詰めかけた紫の応援団が沸き上がる。それは堀越が最後の最後で見せた、執念と意地の1点だった。

チームが採用するボトムアップ方式の中心として、グループを牽引してきた主将の中村が発した言葉が印象深い。「胸を張って良い結果だと思います。新しい歴史を創れたことは相当すごいことで、全く下を向く必要はないですけど、応援があるからこそ自分たちも戦えたので、その感謝は絶対に忘れてはいけないと思っています」。

東京の高校が国立競技場で準決勝を戦ったのは、実に25年ぶりのこと(※100回大会で準決勝へ進出した関東第一高校は試合辞退)。目覚ましい躍進を遂げた堀越の選手とスタッフに大きな拍手を送りたい。



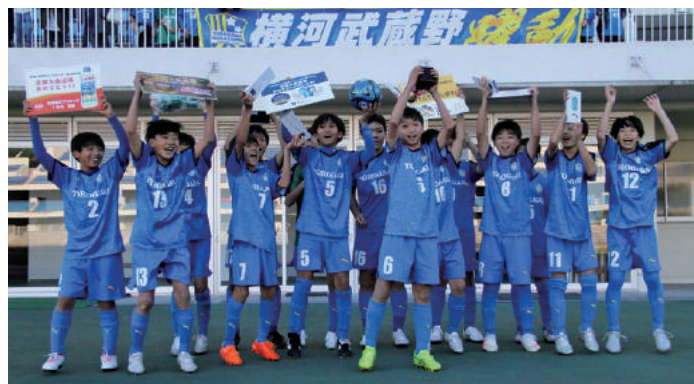
国立競技場の舞台に立った堀越イレブン

大会結果

1回戦	vs 今治東	○ 2-0
2回戦	vs 初芝橋本	○ 0-0 8PK7
3回戦	vs 明桜	○ 1-0
準々決勝	vs 佐賀東	○ 2-1
準決勝	vs 近江	● 1-3



横河武蔵野フットボールクラブ U-12 が大会制覇

JFA 第47回全日本 U-12 サッカー選手権大会
東京都中央大会

優勝を決めた横河武蔵野フットボールクラブU-12の選手たち

試合をコントロールした横河武蔵野が優勝を決める

試合はいきなり動いた。2分、横河武蔵野は「自分で抜けたと思った。(自分の武器は、ドリブルと相手と間合いを取って縦に行く仕掛け)」と話す加藤啓大(6年)が長い距離を運びマイナスのパス。これを10番牛島空(6年)が右足で流し込んだ。牛島は今大会、6試合のうち5試合で先制ゴールを奪う勝負強さを発揮。「ゴールを入れた瞬間に全国大会に行ける感じが近づいてきたとワクワクしました」と明かした。

その後も横河武蔵野が攻め続け、14分には左サイドで金子弥叶(6年)が取め、ニアサイドに走り込んだ齋藤千裕(6年)が沈める。さらに齋藤は20分に個人技から追加点を奪った。スローインからのプレーで、中盤でボールを持つと「自分の得意なものを出していきたいと思った」とドリブルを開始する。「狭い中でドリブルするのでタッチを細かくして、ボールが流れないように、相手が触れない位置にボールを置くのがコツ」。スルスルと抜いていくと最後は左足で流し込んだ。小柄なドリブラーはこれまでプレッシャーの厳しい場面では潰されてしまうことも多かったというが、この日は自らの長所を発揮。神田敦史監督も「ああいう狭いエリアでボールを奪われない技術と運び出せる技術の両方を持っている。そこに最後フィニッシュがあればというのをいつも言っていた中で、こー一番でやってくれた。彼の理想の形を出せたのかなと思います」と喜んだ。

前半は多くの時間帯でボールを握り、主導権を持って進めた中で3得点。神田監督は「1点入ったのもありましたが、試合運びはうちのペースで持って来られた。もうずっとボールを握って、そこに



中盤でバランスをとった高田秀磨

主 催：公益財団法人日本サッカー協会 他

日 程：2023年11月4日(土) 5日(日) 11日(土) 12日(日) 19日(日)

場 所：町田 GION スタジアム 他

JFA 第47回全日本 U-12 サッカー選手権大会・東京都中央大会の最終日が2023年11月19日に行われ、決勝は横河武蔵野フットボールクラブ U-12(以下、横河武蔵野)と府中新町FCが激突。横河武蔵野が3-0で勝利し、優勝を飾った。

プラスして点が入ったので、前半は正直もう100点のゲームでした」と振り返る。

後半も攻め込みながら、守備面でも集中してプレー。チームの基本コンセプトは攻撃で主導権を握ることだが、「どうし

ても守備に回る時間帯も絶対に出てくる。そういう時は割り切って、持たれているというよりは持たせて守備で主導権を握ろうねという話はいつもしているのでそういう意味ではしっかり抑えてくれたかなと思います(監督)。守備の中心選手として支えた並木蓮(6年)は「横河は結構攻撃的なチームなので、8番の高田秀磨ちゃんとバランスを取ったり、サイドバックに声をかけてカウンターとかをしのぐ所を意識して練習してきた。そういうところは出せた」と話した。

準決勝ではFC TRIANELLO Macidaと対戦。互いに譲らず、2-2で迎えたPK戦の末に横河武蔵野が勝利した。「準決勝はもうお互い消し合いだったので、かなり苦しいゲームではありましたが、本当にたくましく選手が戦ってくれたかなと思います(監督)。この勝利がひとつターニングポイントとなった。

また、今大会ではFWがしっかりと結果を残したことも大きかったという。牛島とともに前線を引っ張った金子は準決勝で1ゴールを決め、決勝では得点こそなかったものの起点となる動きでチームを牽引した。「お母さんたちの応援もあって、もうこれは優勝しないといけないという気持ちがあった」と応援に感謝した。

一方、府中新町も大会前のリーグ戦などではなかなかコンディションが上がっていなかったが大会の中で調子を上げ、準決勝では10番稲本龍磨(6年)の2ゴールで東京ヴェルディジュニアを下し、3度目となるファイナル進出を決めた。決勝では前半の3失点が重く響いたが、最後まで諦めずにプレーし郡司遼汰(6年)がゴールに迫った。



準優勝となった、府中新町FC

TOPICS

8月6日

JFA 第10回全日本 U-18 フットサル選手権大会

優勝 フウガドールすみだファルコンズ

東京のFリーグ下部組織対決でベスカドラー町田とフウガドールすみだとなった決勝戦は緊迫した展開となった。第1ヒリオドをスコアレスで折り返し、第2ヒリオドの34分にすみだはビゴの石井想一郎選手が相手のフィクソの選手からボールを奪うと先制ゴールを挙げた。この1点を守り切り、2度目の決勝で悲願の初優勝を遂げた。U-15年代に続き、U-18年代でも日本に輝いた。

9月10日

JFA 第18回全日本ビーチサッカー大会

優勝 東京ヴェルディBS

東京Vは機を見た前線からのプレスに加えて、ボールを受けたレウエ横浜の選手に対して激しく体を寄せてリズムを作らせ、開始5分から2点を連取。攻撃の素早い切り替えからクロスポールでオウンゴールを誘発、勝負どころを逃さなかった。終盤2点を奪われるも3-2と競り勝って5大会連続の王座に就いた。

10月2日

JFA 第11回全日本 O-40 サッカー大会

優勝 エリス東京シニア40

前半はスコアレスで折り返し、後半に入るとエリスの攻撃に迫力が増す。しかしなかなか北海道オッサンドーレ札幌40から得点は奪えず、一進一退の攻防が続いた試合はスコアレスのまま、勝敗はPK戦に委ねられた。このPK戦を制して、エリス東京シニア40が初出場で初優勝を達成した。

12月23日

第7回全日本大学サッカー新人戦

優勝 早稲田大学

試合は福岡大を相手に立ち上がりから早稲田がボールを保持。19分に早稲田が先制点を挙げると、3分後の22分にも追加点を奪い、2-0のリードで試合を折り返した。後半も74分、82分にも得点を奪い、守りつつも集中した守備で相手のゴールを許さず4-0のまま試合終了。関東勢としては7年連続、早稲田としては初となる全日本大学サッカー新人戦の優勝を手にした。

12月24日

MCCS Sports presents 2023年度第72回全日本大学サッカー選手権大会

優勝 明治大学

序盤は明治がボールを握る展開となり、再三のチャンスを作るもゴールが遠かった。前半はスコアレスで折り返すと、後半の立ち上がりで明治が48分に先制点を決めた。さらに53分に2点目を挙げて点差を広げた。終盤に京産大の攻勢を受けるも堅守の明治が完封勝利。4年ぶりの栄冠を手にした。

CAFURINGA BOYS 東久留米が大会制覇

JFA 第20回全日本女子フットサル選手権大会東京都大会

主 催：公益財団法人東京都サッカー協会

会 場：小金井市総合体育館

日 程：2023年11月26日(日)

JFA 第20回全日本女子フットサル選手権大会東京都大会の決勝と3位決定戦が11月26日に、小金井市総合体育館で行われた。優勝はCAFURINGA BOYS 東久留米(以下、カフリング)、準優勝はVEEX TOKYO Ladies (ビークス)、3位は府中アスレティックFCレディース(アスレ)で、この3チームが関東大会出場権を獲得した。



優勝したCAFURINGA BOYS 東久留米



ジャイアントキリングで3位となった府中アスレティックFCレディース

結果よりも内容

カフリングにとってビークスは今季の関東女子リーグ開幕戦で開幕ダッシュを意図して臨みながら2-2という結果に終わった相手。垣本監督に代わってチームの指揮をとった夏野コーチは試合の位置づけを「選手権は関東大会行きを決めていたので、チーム目標の3位以上(=地域CL出場権獲得)が懸かる関東リーグの次戦タバジダ世田谷戦(12/2 第12節)に重点を置いた」と率直に語っている。「(決勝は)結果よりも内容にこだわった」としながら大会を制したのだから「無欲の勝利」かもしれない。ちなみにリーグ戦は2-1で勝利し2位に浮上。最終節のタバジダ戦に勝利して3位が確定した。



同点弾を決めた、カフリング中村選手

試合は11分、10番佐藤のゴールでビークスが先制した。伸び盛りの若手は敵陣高い位置で相手パスをカットし突進、自ら決めた。カフリングの1点目は8番中村のカットインからのゴール。特徴が出たパワフルなシュートが決まり同点。試合はこのままのスコアで2ndピリオドへ突入。両チーム10分間ノーゴールだったがカフリングが、4番鎌倉のゴールで均衡を破る。鎌倉はゴレイロ17番安田のロングスローをバックヘッドで決めた。追いつきたいビークスは、得意のピヴォ当てを中心に攻め立てるがゴールが決まらない。たまたま4分を残して11番多々良をゴレイロにし、パワープレーに打って出る。リスク覚悟の勝負だったが鎌倉にこの日2点目となるパワープレー返しを決められ2点差に。ビークスは残り1分を切ったところで1点差に肉薄するが追撃もそこまでだった。



追加点を喜ぶカフリングベンチ

アスレがジャイアントキリングで3位に

3位決定戦ではジャイアントキリングが起こった。東京都1部のアスレが関東女子リーグ BALLENA BLANCA城北レディース(城北)を4-3で下して関東行きの切符をつかんだ。

試合は3分、城北が14番中田のゴールで先制した。自陣からの相手キックインを11番の高橋がカットしドリブル、ゴール前で併走する中田にパス、これを中田がきっちりと決めた。13分に15番石井のゴールで追いつかれるが、その後は15分15番飯田、34分11番高橋の連続ゴールで1-3とその差を2点としたときには正直、記者の目にこの試合城北のものと映った。特に前日の準決勝を欠場したエース5番村岡がピヴォに入って落としを高橋が決めたチーム3点目は秀逸。村岡率いるピヴォセットにクアトロセットの高橋を組み込んだ川崎監督の判断が功を奏した。

ところがアスレの森監督によると2ndピリオド残り6分、城北の3点目(1-3)の直前に、勝ってる城北が先にタイムアウトを取ったところから試合の潮目が変わったという。35分に6番中後、38分石井のこの日2点目で同点。そして1分18秒を残してアスレは劇的なシーンを迎える。ゴレイロ18番鑑谷(かぎや)からのロングスローがピヴォの14番幹戸に入る。幹戸はこれをダイレクトで中へつなぎ、7番鹿森がニアに決めた。これでアスレ、逆転し、試合はこのままのスコアで決着した。



歓喜の瞬間

COMMENT

カフリング・小栗麻緒主将



強い相手だからこそリスペクトして勝ちにこういう話をしていました。今日はチーム全員出での勝利なのでそこはよかったかなと思います。

カフリング・中村みづき選手

関東大会では、城北とか出られなかったチームもあるので、まずはその代表で出るという気持ちをプレーで表せるようにして、それが得点であったり球際部分に出てくると思うので、そういうところを出していきたいと思います。



COMMENT

アスレ・森佳祐監督



最後あのような形で気持ちの入ったゴールを見ることができるとは思わなかったので、夢のようです。リーグ戦で対戦していないので。試合動画がYouTubeにあがってるおかげです。そこで分析したのが勝因だと思います。

決勝戦

CAFURINGA BOYS 東久留米 3-2 VEEX TOKYO Ladies

得点者：12分 佐藤凛(ビークス)、18分 中村みづき(カフリング) 31分、38分 鎌倉彩(カフリング)、40分 角田瑞紀(ビークス)

3位決定戦

府中アスレティックFCレディース 4-3 バジェーナブランカ城北レディース

得点者：3分 中田優衣(城北)、13分、石井さくら(アスレ)、15分 飯田若奈(城北)、34分 高橋海友(城北)、35分 中後碧(アスレ)、38分 石井さくら(アスレ)、39分 鹿森翼(アスレ)



サッカーライフ

～サッカーファミリーのサッカーライフを紹介～

たくさんの人に支えられている TOKYO FOOTBALL
どのような人がどのように関わっているのか知ってもらいたいそんな思いから生まれました

審判委員会審判統括部 S3 級 part メンバー 長谷川雅さん

審判委員会発行広報誌
ハーフタイム



日々の活動について
紹介していますので
ぜひご覧ください！

審判 Q&A

Q: 審判委員会に入った経緯について。

A: 小さい頃からサッカー小僧でプロ選手になりたいという夢を持っていましたが、中高と続けていく中で、トップレベルで活躍することは難しいと感じました。高2で4級、大学で3級を取得し、東京FAから依頼を受け公式戦に派遣される立場となり、2級へと昇級し、1級となってから後進の育成のために2018年に審判委員会に入らせていただきました。

Q: 試合派遣での具体的な担当業務は？

A: 私は3級Partに所属しています。「誰にどの試合を担当してもらうか」などの組合せ業務をしています。また、それ以外に研修の企画、試合会場での指導・助言をしています。

Q: 審判活動をする中での楽しさは？

A: そこに立たなければ分からない緊張感、試合後の達成感、何物にも代えがたいものがあり審判活動を通して色々な職種や年代の方と審判という共通点で出会えたことは財産です。

Q: 派遣をする際に、気を付けていることは？

A: 審判を機械的に割り振れば何も悩まず簡単ですが、3級審判員として初めて試合を受ける方やユース審判員の振り分けには注意を払っています。例えば、シーズン終盤はチームの昇降格に関わる試合もあり、その試合に見合ったスキルのある方を派遣することを心掛けています。

Q: 審判委員会で派遣業務以外の業務は？

A: 3級審判員の研修や月に1、2度の頻度で駒沢で行われるトレセンでの指導役をしています。

Q: 審判委員会の活動で忘れられないエピソードは？

A: 指導に関わった大学生が2級に昇級したという話を聞くと嬉しさがありますね。自身のことで言えば、上手くいった試合はすぐに忘れてしまいましたが、ミスをした試合は夢にも出てきます（苦笑）。2011年8月に「東日本震災復興支援チャリティーマッチ がんばろうニッポン!・なでしこジャパン対なでしこリーグ選抜」が旧国立競技場で行われました。東京FAより副審として派遣され、復興支援活動の一端を担い、そしてラモス瑠偉さんや澤穂希さんなど歴代の選手たちと同じピッチに立てたことは良い経験です。

Q: コロナ禍の活動は？

A: 顔を合わせての研修や事業がストップし試合前日に罹患する審判員も出て、直前に担当審判を組み直すことなど大変な面もありました。

Q: 憧れの審判員はいますか。

A: 昨年、引退された1級審判員で国際副審の山内宏志さんです。大学の先輩でもあり審判の世界に私を引っ張ってくれた恩人です。審判としても、人としても魅力的な方で、今はインストラクターとして国内外で活躍をされています。山内さんから「control the controllable」という言葉をもらいました。「自分がコントロールできるのは、試合に向けて良い準備をすることやトレーニングすること、周りの評価はコントロールすることができない、自分がコントロールできることに集中しなさい」と言われ、今でも意識しています。

プライベート Q&A

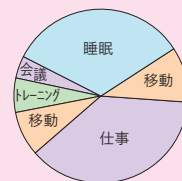
Q: 1日のスケジュールは？

A: 8:30 から17:30 ぐらいまで仕事。帰宅後は自身のトレーニングを約90分、審判委員会の派遣業務やオンライン会議60分を含めて22:00頃まで。そしてプライベート、睡眠になります。
(朝6:00に起床) (8時間睡眠目安)



Q: 普段の仕事は？

A: 現在は北区役所の生活福祉課で、生活保護などの対応をさせてもらっています。



Q: 審判資格の他に、お持ちの資格などは？

A: 教員（中・高校の体育教員免許）と保育士の資格を持っています。

Q: サッカー以外の審判になるなら何のスポーツ？

A: 他競技の審判はイメージが湧かないのが正直なところですが、野球は大変だと思います。ラグビーは無線で話す声の中継に流れるので気になります。体と体がぶつかり合う試合はエキサイトし、サッカー以上に熱くなる競技だと思いますが、審判、選手とも紳士的に対応されているので参考になります。

Q: サッカー以外で気になっているスポーツは？

A: スポーツ全般を見ます。妻はバスケットボールが好きで一緒に見るのですが、「なぜこの程度で笛が鳴るんだ」と口論になるので一緒に見ないようにしています（笑）。

Q: 休日は何をされていますか？

A: のんびり家族と過ごしています。シーズンが終わるとキャンプに出かけたりしますね。



Q: ご自身にとってサッカーとは？

A: 人生の中の大きなピースです。サッカーを通じて色々な人に育ててもらいました。審判をしてなければ出会わなかった人もいるので、出会った皆さんとの繋がりは財産です。

長谷川さんからのメッセージ

サッカーには、色々な関わり方をしている人がいます。選手はプレーに一生懸命であり、指導者は選手がより上手くなるように指導し勝たせたい思いがあります。また審判は目の前のプレー1つ1つを判定していく意識があります。現場では、その思い入れが強過ぎてぶつかり合ってしまうこともあります。一步引いて、どうすれば東京のサッカー環境がもっと良くなるのかという広い長期の視点を持ち、お互いが尊重し合えば、より良い環境に繋がると 생각합니다。

みなさんも審判にチャレンジしてみませんか？

サッカー/フットサルの審判資格は「Kick off」の「審判」より、講習会にお申し込みいただけます！

Kick offログイン

左側の審判を開く

研修会・講習会申込み

技能区分、主催協会、
講習会・研修会区分選択

検索

講義・実技演習・競技規則テストを1日で行い、全てのカリキュラムを修了すれば晴れて審判員の仲間入りです！
審判員資格は単年度（4/1～翌年3/31まで）登録です。



From the Association

問題が相次いで表面化し、いまだに不会因为社会問題となっているハラスメント。

それまで当たり前のように行っていた行為が、ハラスメントと指摘され、戸惑うケースもあると思います。

ハラスメントに意識を向け、自身の思考や行動を立ち止まり考え認識を常に持つことが重要です。

ハラスメントとは

人を悩ますこと。優越した地位や立場を利用した嫌がらせ。

厚生労働省によると「職場のパワーハラスメント」とは、

①～③の要素のいずれも満たすものとしています。

- ① 優越的な関係に基づいて（優位性を背景に）行われること
- ② 業務の適正な範囲を超えて行われること
- ③ 身体的若しくは精神的な苦痛を与えること、又は就業環境を害すること

他にも ▶▶▶

セクシュアルハラスメント・マタニティハラスメント・
アルコールハラスメント・セカンドハラスメント・
テクノロジーハラスメント・リモートハラスメント

...そして、**スポーツハラスメント**

パワーハラスメントの代表的な6類型



なぜ暴力・暴言・ハラスメントを用いてしまうのか？

「勝利至上主義による厳しい指導」
「指導者の知識・指導力不足」
「自らの子どもの時に暴力・暴言等を受けてきた経験に基づく指導」
「クローズになりがちな環境」
「指導者によるエモーションの過度」
などの背景が考えられています。

なぜ暴力・暴言・ハラスメントはダメなのか？

「サッカーが持つ楽しさの本質に反する」
「子どもに与える悪影響」
「負の連鎖（大人の行動を誤解）」
スポーツは本来、気晴らし、楽しみのために、自発的にするもの。サッカー、スポーツを楽しむことは、すべての人の権利です。そのためには安心・安全が大前提です。そのベースにはリスペクトがあるべきです。

一生懸命プレーする選手や子どもたちが楽しくプレーできるようにサポートすることが指導者の役割です。

そして、子どもたちの夢をかなえるために関わり、将来を見据えて育てていくことが大人の役割です。

参考

JFA リスペクト・フェアプレー <https://www.jfa.jp/respect/>





社会人連盟の今

2023年は新型コロナウイルス感染症が5類へと引き下げられたため、コロナ禍以前のようにリーグ戦や各種大会を開催することができました。コロナウイルスの影響下では、昇格あり降格なしのリーグ運営をしていたため、1部と2部ではリーグ戦の試合数が増加し、7月・8月の猛暑期でもリーグ戦を行わなければならなくなりました。参加チームやリーグ運営の対策のおかげで、無事にリーグ戦を終了することができました。今後は、猛暑期のリーグ戦回避のためのリーグ戦の在り方を連盟理事、各部署委員長やリーグ運営委員で協議し、加盟チームが安心してリーグ戦に臨める体制を構築してゆきます。

競技面に話を移すと、東京都サッカートーナメントでは、JFL所属のクリアソン新宿が大会を制し、初の本大会出場を果たしました。また、関東社会人サッカー大会ではFCN.が優勝し、関東リーグ2部への昇格を決めました。関東リーグ全20チーム中7チームが東京都所属チームとなりました。国体成年男子は神奈川県との1回戦を逆転勝ちしたものの、代表決定戦では茨城県にPK戦の末敗退し、残念ながら、本大会出場を逃しました。

社会人連盟では、リーグ戦は加盟チームが会場を確保し、自主運営にてリーグ戦を行っています。東京カップやクラブチーム選手権等の大会は連盟で用意した会場にて大会を開催しています。特に、清瀬市の内山運動公園サッカー場の使用頻度は高く、利用するうちに、軽くて丈夫なアルミベンチがあった方が便利ではないかとの声が上がったため、清瀬市と協議しサッカー用アルミベンチ12台を寄付いたしました。10月18日には、清瀬市役所本庁舎内教育部・生涯スポーツ課にて贈呈式が行われ、坂田篤教育長に目録を手渡しました。ベンチは内山運動公園サッカー場A面の倉庫に収納されていますので、各連盟や委員会でもご利用いただき、大会やリーグ戦での利便性の向上につながれば幸いです。

オフィシャルサイト

<https://tokyo-fa.com/>



東京都社会人サッカー連盟

理事長

和久井 修



清瀬市の内山運動公園サッカー場に設置したアルミベンチ



関東社会人サッカー大会で優勝したFCN

変革への挑戦

2023年度は、近年のコロナ禍における入場制限や運営規制等はほぼ全て解除され、新しい挑戦に複数取り組んできました。その中でも、大きな挑戦・変化をご紹介します。

1つ目は、東京都大学サッカーリーグと神奈川県大学サッカーリーグが統合し、「第1回 関東大学サッカーリーグ戦東京・神奈川」として年間リーグ戦を開催しました。背景としては、神奈川県大学サッカーリーグの所属チーム数減少とリーグ内での競技力格差が大きくなっていることから、東京へ合流をさせていただくことによって双方メリットがあると思い準備を進めてきました。合併により、所属チーム数は39チーム、国内最大規模の大学サッカー連盟となりました。リーグ戦を統合するにあたり、両リーグから代表者を選出して「リーグ運営委員会」を立ち上げ、開幕までに複数回話し合いを重ねることで、両者のリーグ規約規定・運営要項・慣習を尊重しながら1つになるよう努めました。互いに長い歴史がある中でうまく合併できるか不安もありましたが大きな問題もなく、無事年間リーグを終えることができたことを心から嬉しく思います。リーグ統合にあたり、関係各所の皆様には度々質問や確認等で多大なるサポートをいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

2つ目は、弊連盟主管大会において東京都サッカー協会審判委員会のご協力のもと「審判育成グループ」を設立して、これまで主審実戦経験が多くない学生審判員に主審を担当していただきました。

当日の審判割り当てのほか、事前の審判講習会や試合後のアセッサーからの直接指導もあり、普段経験することのない環境を作ることで若手審判員の育成にも寄与することができました。大学サッカーへの関わり方は、選手や指導者だけでなく、アナリストや審判員など、近年選択肢は益々広がっております。今後も、選手のプレー環境の向上のみならず、大学サッカーに関わる全ての人がそれぞれの役割で更なる活躍ができる環境づくりに尽力してまいります。

2024年度は、事務局スタッフと学生幹事の増員もあり、西が丘や駒沢を使用しての外部会場試合のPR促進をし、中学・高校年代にもぜひ観たいと思われる大学サッカーを目指してまいります。

オフィシャルサイト

<https://www.f-togakuren.com/>



東京都大学サッカー連盟

理事長

大嶽 真人



学生幹事17名の運営により、無事リーグ表彰式を執り行いました

関東大学サッカーリーグ戦 東京・神奈川
2023年リーグ編成表

1部リーグ			2部リーグ			チャレンジリーグ		
1	成蹊大学	1部 7位	1	日本大学文理学部	2部 6位	1	創価大学	チャレンジ 4位
2	朝鮮大学校	1部 8位	2	東京都立大学	2部 7位	2	桜美林大学	チャレンジ 5位
3	学習院大学	1部 9位	3	一橋大学	2部 8位	3	山梨大学	チャレンジ 6位
4	帝京大学	1部 10位	4	国際基督教大学	2部 9位	4	東京外国語大学	チャレンジ 7位
5	上智大学	1部 11位	5	東京工業大学	2部 10位	5	東京農工大学	チャレンジ 8位
6	玉川大学	1部 12位	6	都留文科大学	2部 11位	6	日本文化大学	チャレンジ 9位
7	大東文化大学	2部 1位	7	松蔭大学	神奈川	7	東京都立大学	チャレンジ 10位
8	成城大学	2部 2位	8	神奈川工科大学	神奈川	8	明星大学	チャレンジ 11位
9	成城大学	2部 3位	9	防衛大学校	神奈川	9	電気通信大学	チャレンジ 12位
10	東京理科大学	2部 4位	10	工学院大学	チャレンジ 11位	10	東京薬科大学	チャレンジ 13位
11	武蔵大学	2部 5位	11	芝浦工業大学	チャレンジ 12位	11	北星大学	チャレンジ 14位
12	横浜国立大学	神奈川	12	日本大学生物資源科学部	チャレンジ 3位	12	横浜国立大学	神奈川
						13	横浜国立大学	神奈川
						14	武蔵野大学	東京・新規
						15	和光大学	東京・新規

神奈川から6チームを加えた、全39チームでリーグ戦を実施した。

部活動地域移行について

7月に総合体育大会が行われました。コロナが5類になってから初めての公式戦でした。いつもの大会が戻り、ピッチから大きな声が響き、スタンドからは、仲間たちや保護者の方々の声援が響き渡っていました。ゴールを決めた選手は喜びを爆発させ、チームは一つになりお互いを称え合っていました。このように大会が開催できたことに、常日頃から支えてくださる東京都サッカー協会の皆様には感謝を申し上げたいと思います。

今年度は部活動地域移行によって新たなチームが参加することを予定して準備をしてきました。ですが、東京都全体で結果はゼロでした。まだまだ部活動の地域移行については課題が残る1年だったと思います。ただ、東京都サッカー協会を中心とした活動は他の競技と比べるとかなり発展したものとなっています。クラブチームと部活動が、お互いに支え合いながら活動ができています。指導者養成講習会、審判員養成講習会なども充実しています。また選手育成についてもクラブ・中体連が協力して活動をしています。東京では、中学生がやりたい場所で好きなサッカーする環境が多くあります。とはいえ、課題がないわけではありません。部活動では、グラント問題、活動時間・日数、運動部活動指導員・外部指導員などの地域人材の発掘と活用はこれからの課題となります。

全ての中学生年代の選手たちが充実したサッカーライフを過ごせるように、これからも中体連サッカー専門部は尽力していきたいと思っています。来年度以降、地域移行チームがどのくらい参加してくれるか分からない状況ですが、部活動を含め、参加してくれた全ての中学生にとってサッカーという競技をより楽しんでもらえる環境を作っていきたいと思っています。

オフィシャルサイト

<https://www.soccer-tokyoctr.jp/>



東京都中学校体育連盟 サッカー専門部

部長
艸川 幸治



東京都中学校サッカー新人大会の様子



東京都中学校サッカー新人大会の様子

令和5年度女子連盟活動報告

元日に発生した能登半島地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の分類が5類へ移行して以降、社会活動が正常化する中、女子連盟の令和5年度の活動を行ってまいりました。女子連盟は各年代に沿ったカテゴリー別の部会（一般、大学、高校、U18、U15、技術、審判、広報など）が合わさる形で構成されています。女子では各年代の関東リーグの枠組みも整備され、より激しい競争の下、様々な大会が開催されています。昨夏開催されたW杯オーストラリア&ニュージーランド2023大会でのなでしこジャパンの活躍は記憶に新しいところですが、こういった場でも東京出身選手の活躍を見られることは女子連盟の活動にたずさわる者にとっても非常に喜ばしいそんな活躍だったと思っています。女子のサッカーが今後とも発展を続けていくため、また少しでも多くの方が関心を持っていたくための活動を進めてまいります。

その取り組みの一つをご紹介します。長年の懸案事項であった女子連盟のオフィシャルサイトのリニューアルであります。特にコロナ禍は、いろいろな行動が制限される中、サッカーの場においても観客の入場や応援を制限するなど様々な制約により不都合が生じておりました。結果を知りたい、情報が欲しいといった様々なニーズにお応えすることができず、お叱りをいただいたことも多々あった中オフィシャルサイトを見やすく、更新を適時にすることで多くの方に興味を持ってみていただく形ができたと思っています。技術の発展に伴い、結果の配信だけにとどまらず、関係者への画像の配信などもサイトを通じて提供できる環境が整いました。今後も女子サッカーを拡大させていくためにも様々な情報を提供するサイトにしていけたらと思っています。

オフィシャルサイト

<https://sc.footballnavi.jp/tokyosa-lady/>



東京都女子 サッカー連盟

副委員長
前田 光洋



関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会の様子

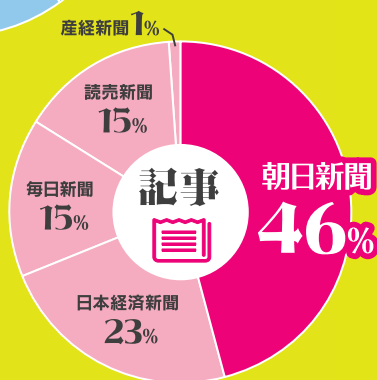
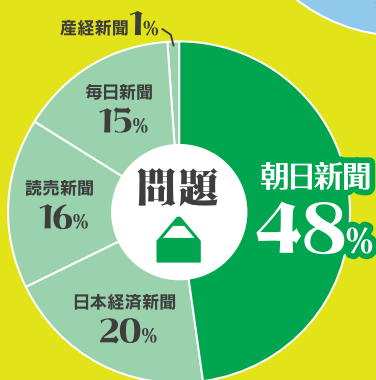
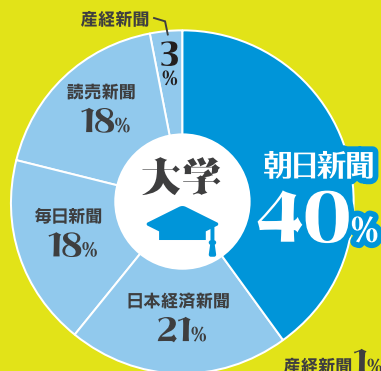


関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会の様子

朝日新聞は 2023年度も 大学入試出題数

No.1

全国紙の2023年度大学入試出題実績



※大学通信調べ(2023年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、回答数760。



朝日新聞

ご購入・お試し読み
受付時間 7:00~21:00

0120-33-0843

